

勿凝学問 96

医療の生産性向上は国を挙げての課題！？
診療報酬を引き上げれば医療生産性は上がるよ

2007年7月16日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

毎日新聞の日曜版に、潮田道夫氏の「千波万波」というコラムがある。このコラムは、以前、「勿凝学問 69 [余暇が北欧成功の決め手——Leisure is the vital ingredient in Nordic success](#)」(2007年2月27日脱稿)にもご登場いただいております、ときどき楽しく読ませてもらっている。この「勿凝学問 69 余暇が北欧成功の決め手」は、わたくしも編集者もIV巻に収めるつもりでいて、校正もしたつもりだったのだけど、なぜだかどこかですっぽりとふたりの記憶が途絶えてしまい、出来上がった本には入っていなかった——という、いわく付きの文章でもある。目下、V巻かどこかにこっそりと潜り込ませるつもりでいたりもする(涙)。

ところで昨日、潮田氏は「東大病院1泊18万円」というタイトルのコラムを書かれていた。その中に、いささかカチンとくる文章があったので、わたくしは早速、日本福祉大学の二木立先生に問い合わせのメールを出した。

Forwarded by Y Kenjoh <kenjoh@fbc.keio.ac.jp>

----- Original Message -----

Date: Sun, 15 Jul 2007 18:21:24 +0900

Subject: 今朝の毎日新聞「千波万波」

二木先生

今朝の「東大病院1泊18万円」の最後の文章、「日本の医療費は過剰投薬と過剰入院をやめれば3割削減できるそうさ」などという情報は、どこが出所なのでしょうかね。

「無駄を排し、米国の75%にとどまる医療の生産性を高めてもらいたい」というのも、頭痛い話しですね。

----- Original Message Ends -----

医療の現場で、毎日、医療費抑制政策の矛盾と格闘されている医療関係者でないわたくしでさえカチンときたのであるから、医療関係者がこの文章を読んだらさぞかし怒り心頭ではないかと思っていたら・・・その夜。

Forwarded by Y Kenjoh <kenjoh@fbc.keio.ac.jp>

----- Original Message -----

Date: Mon, 16 Jul 2007 00:45:32 +0900

Subject: 突然のメールで失礼いたします。

突然のメールで失礼いたします。本を読んで著者にメールするなど初めての経験ですが、他にもメールしている方が多数おられるようですので、勇気をふるって送信いたします。

先生と同じ1962年生まれの大阪在住の医師です。10年の勤務医生活の後、診療所に勤めて10年目になります。二木立先生の著作を読んで、先生の著作にたどり着きました。1日1回は先生のHPをチェックするヘビーユーザー(?)です。

「医療政策は選挙で変える」拝読しました。勿凝学問もずっとチェックしていましたが、やはりまとめて通読するとスッキリ整理された気がします。知人にも勧めました。より多くの読者に読んでもらえれば、投票日が延期されたのもかえってよかったのかもしれない。

15日の毎日新聞大阪版には、「潮田道夫の千波万波」なる論説委員のコラムが掲載されています。この内容があまりにひどく、是非勿凝学問で取り上げてほしく紹介します。曰く「日本の医療費は過剰投薬と過剰入院をやめれば3割削減できる」「米国の75%にとどまる医療の生産性」・・・

10年前私は、「こんな生活が続けばいずれ過労死してしまう・・・」と考え、病院を逃げ出しました。小松秀樹先生の言う立ち去り型サボタージュの先駆けです。現在も有休など取れず、病気の際の補償なども乏しく不安もありますが、勤務医の過酷さには比べようありません。公的医療費の拡大と、医学部定員増が必要です。先生の「再分配政策の政治経済学」がますます発展し、「積極的社会保障政策」が実現していくことを期待しています。

----- Original Message Ends -----

何度も言うけど、医療がここまで追いつめられているのに、その窮状が世間には伝わら

ない。影響力絶大である大新聞のコラムニストでさえ、まったく分かっていない。それが医療問題の特徴なんだ、話せば分かるなど夢の夢、言っても分からないのだから、医療関係者 200 万人対政治家という構図の中で突破口を切り開きましょうよというのが、わたくしの基本的姿勢となる。

それは、さておき――。

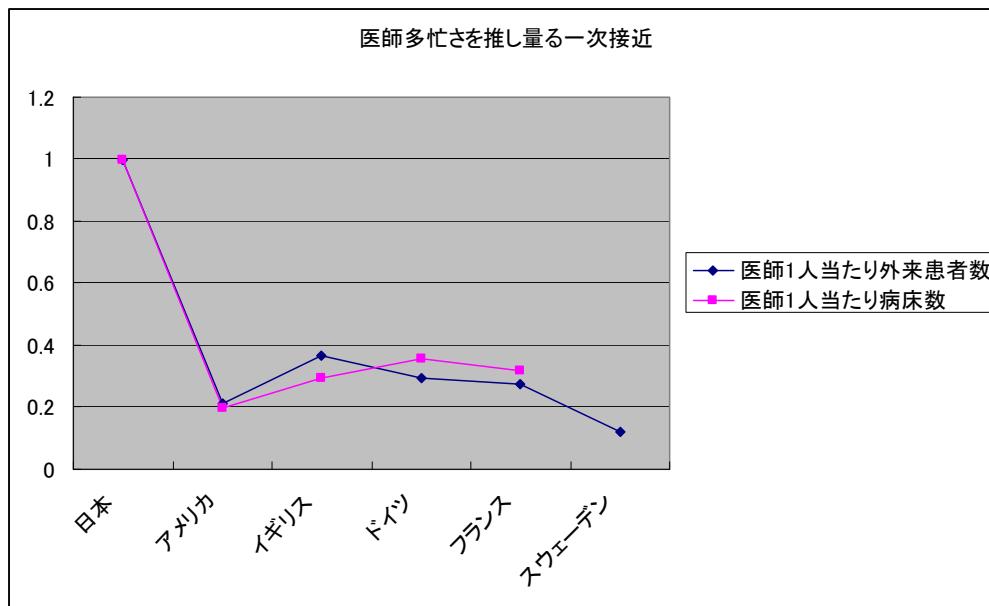
先日 7 月 7 日の『公共選択学会』にて、医療費適正化に関する研究が報告された。そこでは、ある地域の医療費を年齢リスク調整済みの標準医療費で除した「地域差指数」という、厚労省もよく使っている概念が用いられていた。この地域差指数は、1 よりも大きい地域は医療を多く使っており、1 よりも小さい地域は医療を少なくしか使っていないことを表す。そしてもちろん、医療費適正化（医療費抑制？）は、地域差指数 1 よりも大きな地域を対象として 1 に近づくように重点的に行うべしということになる。そこでわたくしは、（討論者ではないから余計なお世話なのであるが）座長の席から、「地域差指数 1 が望ましいって、どうして言えるのかな？ 日本の病院は、そのほとんどが人手不足、資金不足で苦しんでいるよね。外国と比べても圧倒的に医療費が低く、医師数も少ない。日本の医療は一部はすでに崩壊していて、ほかにも崩壊寸前・・・」とコメントすることになる。

潮田氏の「千波万波」に戻れば、「日本の医療費は過剰投薬と過剰入院をやめれば 3 割削減できるそうだが」の論拠は、なんなのだろうか。過剰がある限り、最適があるはずであるが、その最適投薬とか最適入院というのは誰がどのようにして定義して、潮田氏の論拠となるような推計を行っているのだろうか。ご存知の方がいらっしゃったら、ご連絡いただきたい。

つぎ。

先日 7 月 11 日の「医療費の将来見通しに関する検討会」にて、医療の生産性の議論があった。出席者はみな専門家だから、日本の医療の生産性が低いというのは出席者周知のこと、その原因が、診療報酬と制度改定により医療費が政策的に低く抑え続けられてきたからというのも出席者周知のこと。医療生産性を上げたいのであれば診療報酬を引き上げればよいのである。このあたりの話しは、いずれ公開される「第 5 回 医療費の将来見通しに関する検討会」議事録をご参照いただきたい。

ついでに余計なことを言っておくと、必ずしも生産性は付加価値生産性で測る必要はなく、生産物で測った物的生産性を見ることもある。そこでいま、医療の生産性を、医師 1 人当たりの取扱患者数で見ようとすれば、わたくしが「医師の多忙さを推し量る一次接近」と呼んでいる図を見ればよいことになる。



IV巻, p.27.

う〜んっ、日本の医師はアメリカの5倍ほどはたらき、日本はアメリカの5倍ほどの物的生産性を示しているとした読み取れないですねえ、これは。

最後に――

「生産性」という言葉を、『岩波 現代経済学事典』で引いてみたら面白かったので紹介しておきます。

・・・エコノミスト、新聞などが誤って使っている場合が多いので、その内容を厳密に定義する必要がある。いま投下労働量を l 時間とし、それによって生産された生産物を q とすると、労働生産性は $\frac{q}{l}$ であり、労働当たりの物的生産性である。したがって、生産性の比較は、工場内の同じ工程をとって比較する以外ない。たとえば、乗用車の組立工程を日米間で見ると、1人1時間当たり、もっとも効率のよい工場同士で、日本1に対して、米国0.35であり、塗装工程で、最頻価日本1、米国0.5（いずれも1981年）である。しかし、通常エコノミストや新聞が用いる生産性は付加価値生産性で、価格を p 、製品当たり原材料費を u とすると $(p-u)\frac{q}{l}$ である。したがって、価格の高い米国の自動車産業が、物的生産性 $\frac{q}{l}$ は小さくても、付加価値生産性が高くなることもあり、日本は生産性が低くなる可能性がある。

『岩波 現代経済学事典』は、実は、読みものとしてとても面白く、この春の健康マネジメント研究科で「市場の失敗」について説明しているときなども、事典の次の文章を、ついつい読み上げてしまいました。

現代経済の現実、都市問題でも、交通問題でも外部性が大きな問題となっており、大企業は収穫逓増であり、加えて現実の不確実性をともなう動学経済であり、市場の失敗を例外とする現代経済学は、問題といわねばならない。

同感也。

追記

6月に知人の記者に送ったメールである。

今朝の社説は最高でした。

多くの医療関係者が注目されたと存じます。

今医学部定員を増やしてもすぐに何とかなるものではありませんが、今必要なことは、彼らを絶望感から救い、仕事を続けることに希望を持てる状況を作ることのように思えます。政府は政策方針を変えようとせず、医療費抑制政策がつづけられています。そして、制度改革・診療報酬改定の度に医療関係者は無力感を覚え、彼ら医療関係者は疲れ切っています。

ところで、小松先生の『医療の限界』の Amazon のページに早速コメントがついていますが、「今後も日本の医療崩壊は続いていくだろうが、将来、荒廃しつくされた医療環境になってから、記念碑的に小松医師の本が思い出されると思う」という医師からの皮肉な内容になっています。

彼ら現場の人たちによる日本の医療への印象は、苛立ち、怒りから、すでに諦観に移っているかと存じます。

今朝の社説は多くのひとの記憶に残る、記念碑的な記事になるかと存じます。

講義で学生に紹介させていただきます。

お目こぼしただけでしたらありがたく存じます。

もちろん、良い記事としての紹介です（笑）。